

捕囚から帰還した民をきよめることの内在的な意義

聖書：エズラ 9:1—10:44．ネヘミヤ 13:23-30 前半．

マタイ 5:8．啓 21:18 後半，21 後半，22:4

- I. 主の回復は独特なものです。この回復は、絶対的に純粋で、単一で、^{きよ}聖いものでなければならず、いかなる混合もあってはなりません。こういうわけで、わたしたちは、多くのエズラやネヘミヤがきよめる働きを遂行することを必要とします。主の回復のすべての段階において、きよめることが必要になります：
- A. エズラは、「聖なる種」をあらゆる異教のものから分離させることによって、回復をきよめました——エズラ 9:1—10:44：
1. エズラが到着する前、混合がありました。なぜなら、何人かのイスラエル人が異教の妻と結婚し、この混合から子供を生んでいたからです。これは予表であって、この事をわたしたちは文字通りにではなく、霊的に適用すべきです。
 2. 主の回復の中で、「聖なる種」をあらゆる異教のものから分離して、きよめる必要があります——エズラ 9:1-2：
 - a. 主の回復は聖なる種です。わたしたちは純粋になって、聖なる種がいかなる異教のものとも決して混合しないようにしなければなりません。
 - b. 回復が聖いとき、わたしたちは主の祝福を見るでしょう——エゼキエル 34:26。
- B. 家が建造された後、わたしたちはきよめることを必要とします(エズラのリーダーシップの下に見られます)。都が建造された後、わたしたちは再びきよめられる必要があります(ネヘミヤの絶対さに見られます)——エズラ 9:1-2．10:1-44．ネヘミヤ 13:1-30 前半。
- C. 諸地方召会の中で、わたしたちはすべての混合から徹底的にきよめられなければなりません。俗なあらゆるものと、主の回復の天的な性質と相いれないあらゆるものは、除き去られなければなりません——II テモテ 2:19-22。
- II. バビロンとは、神の事物と偶像の事物との混合です。バビロンの原則とは、人の事物を神の御言と混合させ、また肉の事物をその霊の事物と混合させるという原則です——歴代下 36:6-7．エズラ 1:11．啓 17:3-5：
- A. バビロンの一部であるものはすべて、神の目に忌むべきものです。バビロンの的であるものはすべて、サタンに神の民を打ち破る立場を与えます——ヨシュア 7:1-21。

B. 神は他のどんなものよりもバビロンの原則を憎みます。わたしたちが自分の中にあるバビロンの事物すべてを裁くときはじめて、わたしたちもバビロンの原則を憎むと言い表すことができます。

III. 使徒第 21 章とヤコブの手紙には混合があります。ヤコブは、旧約と新約を混合させ、新しい^{けいりん}経綸と古い経綸を混合させ、神の新しい民と古い民を混合させ、新しい人と古い人を混合させました——ヤコブ 1:1, 17-18. 2:1-4, 8-12. 3:2. 4:11-12. 5:10-11 :

A. 使徒第 21 章は、エルサレムに在る召会の中の重大な混合を暴露しています。ユダヤ人信者たちは、依然としてモーセの律法を守り、旧約の時代にとどまっており、ユダヤ教の強い影響の下にあり、神の新約エコノミーと時代遅れの旧約エコノミーとを混合させていました——使徒 21:18-21。

B. 律法の時代が完全に終わっていることと、恵みの時代が完全に尊ばれるべきであることと、これら二つの時代の区別を顧みないことはすべて、神による時代の行政に反しており、キリストの表現としての召会を建造する神のエコノミーのご計画に対する重大な損害になることを、彼らは知りませんでした——ヨハネ 1:16-17. 啓 2:9。

C. 律法は、神が何であるかにしたがって人に要求します。恵みは、神が何であるかをもって人に供給して、神の要求に応じます。恵みは、人によって享受された神です——ヨハネ 1:16-17. ガラテヤ 6:18. II コリント 13:14. 12:9. I ペテロ 4:10. エペソ 3:2. 4:29. 6:24。

IV. 神の子供たちの中の大きな問題は、自己と霊との混合です——ヘブル 4:12:

A. この混合は、多くの人に神に仕える資格を失わせます。なぜなら、彼らの霊の中には多くの混合があり、この混合は神を喜ばせないからです——II テモテ 1:3。

B. わたしたちの最も内なる部分にある霊は、純粹であり、汚れていません。しかしながら、霊は魂と体を経過して出て来るとき、汚れと腐敗によって汚染されるかもしれません——II コリント 7:1。

C. 霊を対処することの重点は、わたしたちの内側にある不純な動機や意図やその他の混合を対処することにあります——I テサロニケ 5:23. II テモテ 1:7。

V. わたしたちは、心と良心と霊において純粹である必要があります :

A. 心の純粹な人たちは、神を見ます——マタイ 5:8. ヨブ 42:5. 啓 22:4 :

1. 心が純粹であるとは、目的において単一であること、神の栄光のために神のみこころを達成するという単一の目標を持つことです——I コリン

ト 10:31。

2. 純粋な心とは、主を唯一の目標とする心です——Ⅰテモテ 1:5. Ⅱテモテ 2:22. 詩 73:1。
 3. 新約の意味によれば、神を見ることは神を獲得することと等しく、神を獲得することは、神の要素、命、性質において神を受け入れることであり、それによってわたしたちは神で構成されます。神を見ることは、わたしたちを造り変えます。なぜなら、わたしたちは神を見るとき、神の要素をわたしたちの中へと受け入れ、わたしたちの古い要素が排出されるからです——Ⅱコリント 3:18。
 4. 神を見ることは、神・人であるキリストの栄光のかたちへと造り変えられることです。それによってわたしたちは、神の命において神を表現し、また神の権威において神を代行します——Ⅰヨハネ 3:1-3. 創 1:26。
 5. わたしたちは、主の回復のために心が純粋で、単一であるべきです。そうしてはじめて、わたしたちは回復にとって助けとなるでしょう——Ⅰテモテ 1:5. Ⅱテモテ 2:22. Ⅰペテロ 1:22。
- B. わたしたちは、正しい良心を持つ必要があるだけでなく、純粋な良心も持つ必要があります——使徒 23:1. 24:16. Ⅰテモテ 3:9. Ⅱテモテ 1:3:
1. 正しい良心とは、神と人に対してとがめのない良心です——使徒 23:1. 24:16。
 2. 純粋な良心とは、あらゆる混合からきよめられている良心です。そのような良心は、パウロと同じように、わたしたちは神と彼のみこころだけを尋ね求めていると証しします——Ⅱテモテ 1:3。
- C. 働きにおける第一の資格は、霊の純粋さです——Ⅱコリント 6:4 前半, 6:
1. 霊が純粋である人を見いだすのは、とても困難です(7:1)。純粋さは、リーダーシップにおける必要条件であり、またわたしたちの奉仕の基本的な条件です(Ⅰテモテ 3:9. 1:5)。混合の問題は、働き人の間の最大の問題です。純粋でないことが、往々にして誤解と疑いの源です(Ⅱテモテ 1:3. Ⅰテモテ 3:9. テトス 1:15)。
 2. わたしたちは、霊の中のすべての混合を完全に対処する必要があります。そうすれば、わたしたちの霊が解放されるとき、危険ではなく、他の人々たちに対して問題を起こすこともないでしょう。
 3. もしわたしたちが神によって用いられたのなら、わたしたちの霊は解放されなければならない、またわたしたちの霊は純粋でなければなりません——Ⅱコリント 6:4 前半, 6。

- VI. 新エルサレムの都は純金であって、透き通ったガラスのようです。都の大通りは純金であって、透明なガラスのようです——啓 21:18 後半, 21 後半:
- A. 金は神の性質を表徴します。都が純金であることは、都が神聖な性質から出て来ており、神聖な性質をその要素としていることを示しています——啓 21:18 後半。
- B. 大通りと都との純金は透き通ったガラスのようです。これが表徴しているのは、都全体が透明であって、不透明な所が全くないということです——21 節後半:
1. もしわたしたちが神の性質をわたしたちの唯一の道とするなら、わたしたちは純粹になって、何の混合もなく、また透明になって、何の不透明さもないでしょう。
 2. もしわたしたちが命を与える霊をもって注入され浸透されるなら、わたしたちの内なる存在は透明になり、水晶のように透き通るでしょう——Ⅱコリント 3:8-9, 18。
- C. もしわたしたちが真実な召会生活を持ちたいなら、召会自身が純金でなければなりません。すなわち、完全に神聖な性質から出て来たものとならなければなりません。ここでわたしたちは、わたしたちを浄化しきよめる十字架の働きを必要とします——啓 1:11, 20。
- D. 背教のキリスト教世界と真の召会との間の違いは、一方が混合であり、他方が純粹であるということです。諸地方召会は新エルサレムのように、水晶のように透き通っているべきであって、いかなる混合もあるべきではありません——啓 22:1。